

タイトル **美しい自然素材の家**



『地産地消・自立循環型の家づくり』  
 戦後、資源ショックは世界の経済に大きな影響を与えただけでなく、エネルギー資源となる石油が、有限であることを教えるてくれました。そして日本は、資源不可開採を前提に重なるようになってきたが、豊かさを求めるの経済発展は、エネルギー消費（CO2）の拡大を招いた。しかし、現在、地球温暖化の脅威は、自然環境だけでなく我々の生活の中心で争ったなしの存在である（CO2）の削減に努めなければならぬ時代となった。そんな社会環境から、これらの課題は、積極的に目標達成に導くべく取り組みを積み重ねていかなければならない。  
 『美しい自然素材の家』は、人に優しく地球に優しい家づくりとして取り組んだ。まず、地産地消の木材（薪炭材）を使うことで、前述による消費エネルギーの削減を計り、自立循環型設計を目指す取組を入れた2000年の平均的な住宅はエネルギーより約4%の削減を計ることができると試算できるとした。

**CASBEE**

総合評価：★★★★★ (A+)

項目	評価	目標値	達成率
エネルギー消費	A+	1.0	0.4
CO2削減	A+	1.0	0.4
室内環境	A+	1.0	0.4
省資源	A+	1.0	0.4
健康	A+	1.0	0.4
省コスト	A+	1.0	0.4

2.1 省エネルギー  
 2.2 省資源  
 2.3 健康  
 2.4 省コスト

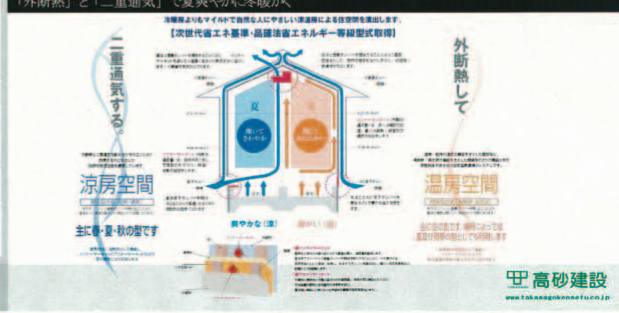
住まい手が参加するづくりのシステムを構築し、地産地消（地産地産地消費）を住宅において実現し、また、環境に負荷を与えないライフスタイルを確立した。  
 ところで、どのように作った材料を、どう使ったか。誰が使ったか。地産地消の考え方はそこから始まる。地域で生産された材料を地元で消費することのメリットは多岐に亘り、大きい。  
 ■輸送費の削減 ■新建材製造に掛かるコストを削減 ■廃棄物も削減 ■伐採期に伐採することで、次の代へ渡す木の育成を促進できる  
 ■地域の産材の活用化、継続が可能になる ■CO2を多く吸収した薪炭材を使用することでCO2の固定化  
 白木の暮らしの中の「地産地消」内装に合うインテリアを考えた時、劇的に家具もおのずと自然産地の材料でそろえてバランスを取るようになった。これらの家具は地元埼玉の製材所で産材を利用して作成したもので、さらには、敷地内にもともとあった既存の樹木を残し、活かすことで伐採時のCO2の削減、同じく既存の井戸を残り、藍木や茅葺へ活用することで、敷地内での循環にも取り組みを続けている。



低炭素スタイル

2019年10月1日より、建築物のCO2排出率を公表する。建築物のCO2排出率を公表することで、建築物のCO2排出率を公表する。1990年10月1日より、建築物のCO2排出率を公表する。1990年10月1日より、建築物のCO2排出率を公表する。

項目	削減率
外断熱・二重通気工法	5.9%
ウッドマイレージ	4.3%
地玉の橋で建てる	3.3%



講評

ごくごく一般的な規模の木造住宅を、誰もが出来るはずのことに一つ一つ丁寧に取組んで完成させた作品である。環境に取組むということの基本は、こうした姿勢から始まるのではないかという点で共感を得た。（審査委員：内田 祥士）

データ

- 所在地 ■ 蓮田市
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 217.00㎡
- 延床面積 ■ 104.33㎡
- 建築面積 ■ 61.82㎡
- 完成年月 ■ 平成20年9月
- 総工事費 ■ 約 2,200万円
- 居住者構成 ■ 15歳未満:2人  
15歳以上65歳未満:2人
- 設計者 ■ 株式会社高砂建設  
設計部長 小川 尚信
- 施工者 ■ 株式会社高砂建設  
代表取締役 風間 健

住まい手から一言

「家族みんなが、健康で安心して暮らせる家が建てたかったです」と話す建築主の家は、全てを自然素材で構成し、念願の「木の家」を建てた。  
 あくまでも自然素材。だからこそ、その思いの深さが形になり、どこを見渡しても木の美しさを目にし、その香りを感じる、心地よいものとなった。

大きなリビングの上は吹き抜けになっていて、現しにした梁が縦空間をより高く感じさせ開放感も抜群だ。健康を追求して自然素材に…とした建築主だが、いつも柔らかな木に囲まれて家族みんなで朗らかに暮らす。このスタイルも健康には大切な要素なのかもしれないと感じた。